

●演習ワークシート

実習日： 月 日

研修生番号：

研修生氏名：

事例 1

症例：68 歳，女性

心筋梗塞にて緊急心臓カテーテルとなり，カテーテル治療に難渋したため，IABP を挿入した状態で治療が行われた．カテーテル治療後，IABP を挿入した状態で ICU に入室となった．

既往歴：20 年前から糖尿病，高脂血症

カテーテル治療後 3 日目，医師より IABP の離脱の指示があった．

演習課題 1

意識状態が安定（鎮静中）とありますが，なぜ，鎮静をするのでしょうか．

演習課題 2

バイタルサインが安定しているとありますが，特に IABP を挿入している患者のバイタルサインを見るポイントを考えてみましょう．

●演習ワークシート

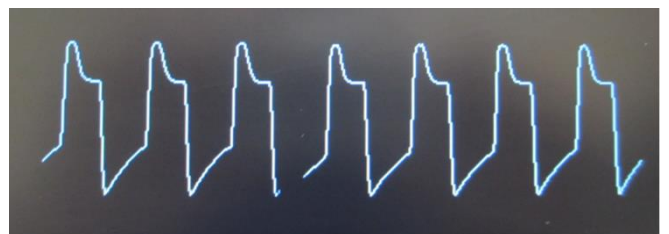
演習課題 3

以下の設問に回答してください。

- 1) 肺動脈楔入圧 (PCWP) , 混合静脈血酸素飽和度 (SvO₂) , 心係数 (CI) はどのカテーターが必要ですか。
- 2) 肺動脈楔入圧 (PCWP) はどのように測定しますか。
- 3) 肺動脈楔入圧 (PCWP) , 混合静脈血酸素飽和度 (SvO₂) , 心係数 (CI) がどの範囲であれば医師に報告が必要でしょうか。

演習課題 4

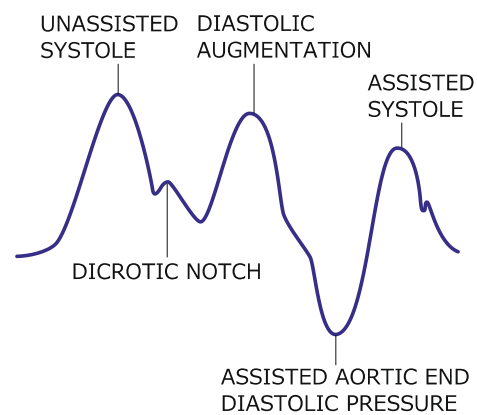
IABP の駆動が不安定で右のバルーン内圧波形を示しています。原因を考えてみましょう。



●演習ワークシート

演習課題 5

IABP の駆動が不安定で以下の圧波になっています。
原因を考えてみましょう。



エワーズライフサイエンス株式会社資料提供

●演習ワークシート

事例 2

症例：78 歳，男性

血液透析中で血圧低下時に胸部痛が出現し，PCI となり，カテーテル治療後に右大腿動脈より IABP を挿入し，ICU に帰室となった。

既往歴：30 年前から糖尿病，高血圧，高脂血症と診断され，20 年前より血液透析を施行している。体重コントロールに難渋し，心不全傾向であった。

カテーテル治療後 7 日目，医師より IABP の離脱の指示があった。

演習課題 1

病状の範囲内であり，安定，緊急性なしと判断できました。診療の補助の内容を確認し，IABP の離脱の手順を考えてみましょう。

演習課題 2

以下の「特定行為を行うときに確認すべき事項」の状態で離脱を進めてよいでしょうか。

- ・ IABP の補助頻度が 1 : 1 のときのアシストされた収縮期圧 80mmHg，アシストされた拡張末期圧 50mmHg，オーグメンテーション圧 120mmHg であった
- ・ IABP の補助頻度を 1 : 1 から 2 : 1 に変更したところ，IABP にアシストされていない収縮期圧が 70mmHg，アシストされていない拡張末期圧 40 mm Hg であった

●演習ワークシート

演習課題 3

以下の「特定行為を行うときに確認すべき事項」の状態で IABP 挿入患者特有の原因として考えられるものはなんですか。

- ・尿量が減ってきた

演習課題 4

「特定行為を行うときに確認すべき事項」で、IABP 挿入患者のバイタルサインの変化に気づくことも大切ですが、全身状態の観察も重要です。IABP や ECMO など太いシースや太いカニューレを挿入している患者の観察項目を考えてみましょう。

演習課題 5

IABP のガスルーメンに血液を確認しました。何が考えられ、どのような行動をとりますか。